

コンクリート工事の中身を知ろう！

建設工事に於いてコンクリート工事は切っても切り離せないものです。木造住宅だって、基礎になる部分は、鉄筋コンクリート製です。もちろん、外構やお庭の工事に於いても、レンガやブロックを積む時には、ベース(基礎)にコンクリートを使います。そして、皆様が良く知る駐車場の土間コンクリート、石敷きやレンガ敷きの下地にカラ練りモルタル(水を混ぜないセメント)を使います。

この様に、コンクリートと一概にいても、その種類は多様にあります。ただし、その名前や種類を学んでいただくと膨大な時間を要しますので、省略いたします。(それでも、詳しくお聞きになりたい方は何時でもお話しいたしますので、ご連絡をください) ここで知って頂きたいのは、小難しいコンクリートの名前や種類ではなく、同じコンクリート`工事`でも、違いがあるという事を知って頂きたいのです。

例えば、

Aの『駐車場の土間コンクリート』【1㎡/¥4,500 -】

Bの『駐車場の土間コンクリート』【1㎡/¥6,500 -】

Cの『駐車場の土間コンクリート』【1坪/¥10,000 -】

あなたは、どれを選びますか！？ Aですか？ Bですか？ それとも、Cですか？

勘の良い方は、Cを選んだのではないのでしょうか。1坪 = 3.30㎡
つまり ¥10,000 ÷ 3.30㎡ = 約¥3,030-で一番安価だから。

それとも、Aですか？。そのままズバリ与える印象の価格が安いから。

そして残るはB。今度は逆に、価格が高いから、良いものだと判断した。

申し訳ありませんが、どれも、間違っただけの選び方です…。

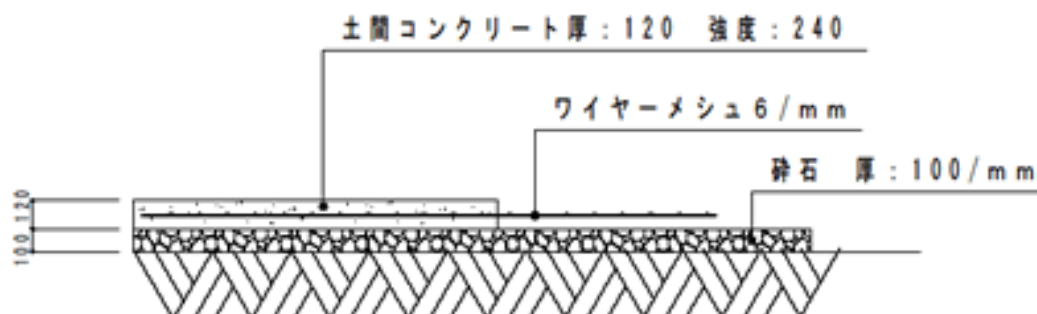
なぜ、どれも、間違っただけの選び方なのか。それは、価格でしか判断していないからです。もちろん、価格は重要な判断基準になります。しかし、価格`だけ`の判断基準は、後のトラブルの大きな原因にもなります。

率直に申し上げて、お値段なりの仕上がりになることは、物理的に当たり前で当然なことです。しかし、その内容までを、知っている人は、建設業界に携わっている人間でもあまりありません。

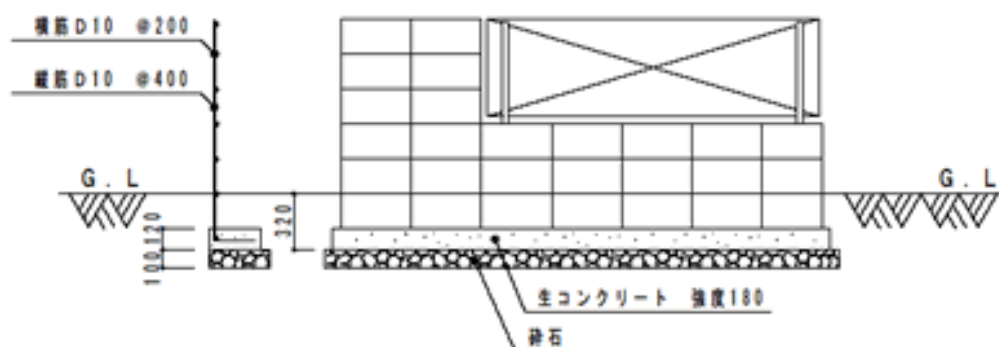
つまり、きちんと選べなくて当然となのです。あなたは、なにも知らないのですから…。

さて、前置きが長くなりましたが、本題に戻りたいと思います。まず、価格だけで、判断することは賢明なことではないと言う事はご理解いただけたかと思います。その上で【土間コンクリートの中身】のお話をさせて頂きたいと思います。

ここでは、一般の皆さまにもわかり易く、『駐車場の土間コンクリートの断面図』(添付資料参照)を御用意いたしました。ご覧のように、一口に『駐車場の土間コンクリート工事』と言っても、



(コンクリート施工図)



(ブロック施工図)

砕石の、厚み&粒の大きさ。

通常、砕石場の0 - 40と言う品質。現場用語は「普通砕石のゼロ・ヨンジュウ」と言っています。「再生砕石」と言った場合は、「普通砕石のゼロ・ヨンジュウ」より低品質になります。

コンクリートに入る、鉄筋の太さ&間隔。

通常、2t以下の車が載る場合、6/mm・150/mm間隔のワイヤーメッシュになります。

無筋(鉄筋が無い)土間コンクリートは、耐久性に著しく支障をきたします。

それ以上は、ワイヤーメッシュと言う区分ではなく、鉄筋の区分になりそれに伴いコンクリートの厚み(量)も増やさなければなりません。つまり、無駄に予算を使うことになります。

仕上げコンクリートの、厚み&強度。

通常、2t以下の車が載る場合、厚みが120/mm・呼び強度は240になります。

ブロックベースなどのコンクリートは、呼び強度は通常、180になります。

(呼び強度が160以下のコンクリートは建築基準法上で使用できません。)

簡単に分けても、これだけの内容が含まれてきます。もちろん、本格的に区分するとまだまだありますが、これからコンクリート工事をなさる方は、最低でも、

【砕石の、厚み&粒の大きさ】

【コンクリートに入る、鉄筋の太さ&間隔】

【仕上げコンクリートの、厚み&呼び強度】

この三つの材料と質量そして価格を照らし合わせて、品物を選ぶことが、賢明だと考えます。

ちょっと前置きが長かったのは、本題が余りにも短かったのが理由です(笑)
しかし、それだけ簡単な基準で、コンクリート工事の品質を誰でも、ある程度、査定出来るのです。どうですか！？ためになりましたか！？

【砕石の、厚み&粒の大きさ】

【鉄筋の太さ&間隔】

【コンクリートの、厚み&呼び強度】ですよ！

簡単ですね！？ これさえ、覚えておけば、どんなコンクリート工事にも応用出来ますので、是非覚えておいてください。